

GAP通信 第7号

2019年4月23日発行

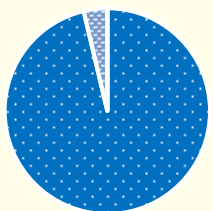
特集 GAPを使いこなせる農家を目指せ!! in園芸部シンポジウム



2019/02/21

講演の内容はどうでしたか？

4% (1名)



- ① 参考になった
- ② あまり参考にならなかった
- = ③ その他

96% (26名)

アンケートへのご協力
ありがとうございました。

アンケートの結果

講演を受けた、多くの皆様から「参考になった」というご意見をいただきました。そこで、今回のGAP通信では、普及所の掛水が、講演を聴いて感じた「重要ポイントTOP3」を紹介します。

「GAP」、使いこなせていますか？
マル付けが目的ではありません

皆様は、点検シートの活用について考えていますか？
「マルを書けばOK」で終わると、点検した内容が活かされず、改善につながりません。

2月21日に開催されたシンポジウムでは安心農業株式会社 藤井淳生氏から「GAPを使いこなせ、良い農場を目指す」ためのポイントが紹介され、GAPを実践するうえで有意義な講演となりました。

ポイント①

ミスは「宝」 改善への糸口だ

皆様は失敗することが嫌ですよ。私も失敗するのは嫌ですし、失敗すると落ち込みます。

しかし、GAPを実践するにあたって、ミスはとても重要です。ミスしたということは「改善の余地がある」ということであり、危険を減らすチャンスです。ぜひ、点検シートを活用し、自分の欠点を見つけ、どう解決するかを考える機会にしてください。



整理されていない
農薬保管庫
出典:シンポジウム
資料



種類別に分類し、
一覧表を作成

ポイント③

あなたの農作業は 本当に大丈夫？

皆さんは農作業中に「ハッ」とした経験はありませんか？何事もなければいいのですが、一歩間違えば、命に関わる事故に発展していたかもしれません。「めんどくさい」、「今まで事故が起きなかった」という油断が事故のもとです。事故が起きる前に、危険な作業や場所がないかを考え、対策をとりましょう。



軽トラックが横転しないように農道を整備したり、事前に草刈をしたりして安全を確保しましょう。

出典:シンポジウム資料

掛水が感じた

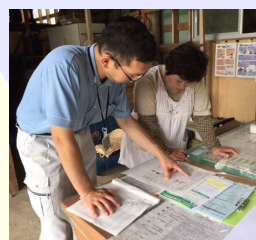
重要ポイントTOP3

ポイント②

しまったと思った時には手遅れ GAPで産地の信頼を守る

もし、出荷した農産物に、消費者からクレームがきた場合、生産者だけでなく、流通や小売りも大きな問題となり、産地の信頼が低下します。

ほ場の段階から細やかにチェックし、事故を未然に防ぐことで、「れいほくは安全な農産物を作ってくれる」という信頼につながります。



ポスターや点検シートには事故を未然に防ぐための確認項目が含まれています。

最後に



藤井先生の講演を聴いてどうでしたか？

今回の講演は、私にとって非常に勉強になる内容でした。JA・普及所職員も日々GAPを勉強していますので、皆様の取組が向上するよう、質問や意見をお聞かせください。

毎月点検シートの変更について

平成31年の点検シートは、平成30年の点検シートで皆様から頂いたご意見を参考に変更しました。
変更点は次の6つです。

- ① 短い文で読みやすく
- ② 確認事項は1項目1つに
- ③ チェック記号を○に統一
- ④ A4サイズに片面印刷
- ⑤ 表紙に記入日を追加
- ⑥ 1ページ目に「記入して気づいたこと」欄を設定

②の変更によって、項目数は増えましたが、毎月点検する必要がない項目については、なるべく減らしました。点検シートに自由記入欄を設けていますので、「点検シートのごきょうがい」といったご意見をいただけると改善することができます。どしどしご意見を出してください。

毎月11日はGAPの日